日　本　カ　リ　キ　ュ　ラ　ム　学　会
第 29 回（北海道教育大学旭川校）大会プログラム

◆ 前　日　2018 年 6 月 29 日（金）　16:00～18:00　理事会
（北海道教育大学旭川校 P 棟 307 第 1 会議室）

◆ 第 1 日　2018 年 6 月 30 日（土）

受　付　９：30～　北海道教育大学旭川校Ｐ棟玄関

１０：００	**課題研究Ⅰ** カリキュラムの評価とマネジメントを めぐって－「効果検証」を中心に－	**課題研究Ⅱ** 学校現場との協働に基づく カリキュラム研究をどう進めるか
１２：００ １３：００	昼食	
１５：１５ １５：３０	**自由研究発表Ⅰ**	
１８：００ １９：００	休憩	
２１：００	**公開シンポジウム** 子どもの主体的な学びを支える学校づくり	
	移動	
	研究交流会	

◆ 第 2 日　2018 年 7 月 1 日（日）

受　付　9:30～　　北海道教育大学旭川校Ｐ棟玄関

１０：００	**自由研究発表Ⅱ**	
１２：１５ １２：３０	移動	
１３：３０	総会（P 棟 101）・昼食	
１５：３０	**課題研究Ⅲ** 「見方・考え方」をどう捉えるか ―資質・能力の育成と教科の本質の追求とをつなぐ―	**課題研究Ⅳ** いま改めて多文化主義の教育を考える

大　会　参　加　要　領

１．会場

北海道教育大学旭川校（北海道旭川市北門町９丁目） アクセスについては、下記のサイトをご参照ください。 http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/

＜交通案内＞

〇道外から旭川駅までのご案内

・JR「新千歳空港駅」より快速エアポートで JR「札幌駅」に約 40 分、JR「札幌駅」から L 特急ライラック及び L 特急カムイで約 1 時間 20 分、JR「旭川駅」下車

・「旭川空港」より空港連絡バスで約 35 分、「旭川駅前」下車

〇旭川駅前から北海道教育大学旭川校までのご案内

・「旭川駅前」から、旭川電気軌道バス「⑤旭町・春光線」で約 15 分、「旭町 2 条 10 丁目」下車、徒歩約 5 分

・「1 条 8 丁目」から、旭川電気軌道バス「⑭旭町線」で約 15 分、「旭町 2 条 10 丁目」下車、徒歩約 5 分

・「1 条 8 丁目」から、旭川電気軌道バス「㉔新橋・北門線」で約 15 分、「北門 9 丁目」下車、徒歩約 5 分

２．受付

北海道教育大学旭川校Ｐ棟玄関（２日間とも同じ場所です）

大会参加費	正会員	3,000 円
	学生会員	2,000 円
	臨時会員	3,500 円

３．昼食

大学構内の生協食堂をご利用下さい。大学周辺に食堂がございません。

４．研究交流会

レストラン「りっか亭」（旭川市６条通４丁目 サンアザレア 1F 電話 0166-24-0088）にて行います。当日，受付にてお支払い願います。尚、研究交流会会場までは、貸し切りバスを手配しております。

皆様の積極的な参加をお待ちしています。

研究交流会参加費　5,000 円

５．宿泊斡旋

宿泊の斡旋はいたしません。ご自身で手配願います。

６．事前受付

大会参加については，学会ウェブサイトの「第 29 回北海道教育大学旭川校大会」Web ページ （http://jscs.b.la9.jp/meeting/meeting.html）の「事前参加申込」ボタンからお申し込みください。なお， 参加費の事前振り込みは行いません。当日，参加費を申し受けます。

自　由　研　究　発　表　要　領

Ⅰ　発表時間：

自由研究の発表時間は，原則として下記の通りです。

個人研究発表	発表 20 分	質疑討議 5 分	（計 25 分）
共同研究発表	発表 40 分	質疑討議 10 分	（計 50 分）

Ⅱ　発表資料：

発表資料等は，発表者各自で配布分（70 部程度）をご用意の上，当日の発表開始 10 分前までに各会場の係員に提出して下さい。大会事務局では，追加の印刷は出来かねますのでご了承ください。また，事前に送付することはお控え下さい。

Ⅲ　発表用機材：

自由研究発表のお申込み時にご連絡を頂いた機材に限り，分科会会場に準備しておきます。機材を使用する予定の発表者は，各自で事前に動作確認を行ってください。なお，使用希望機材のうち，液晶プロジェクターにチェックされた場合，パソコンならびに接続ケーブル（特に Mac ユーザー）などは各自でご用意願います。

自由研究発表Ⅰ及びⅡの分科会の発表題目の後ろに※と記しているのは，液晶プロジェクターを使用することを示しています。

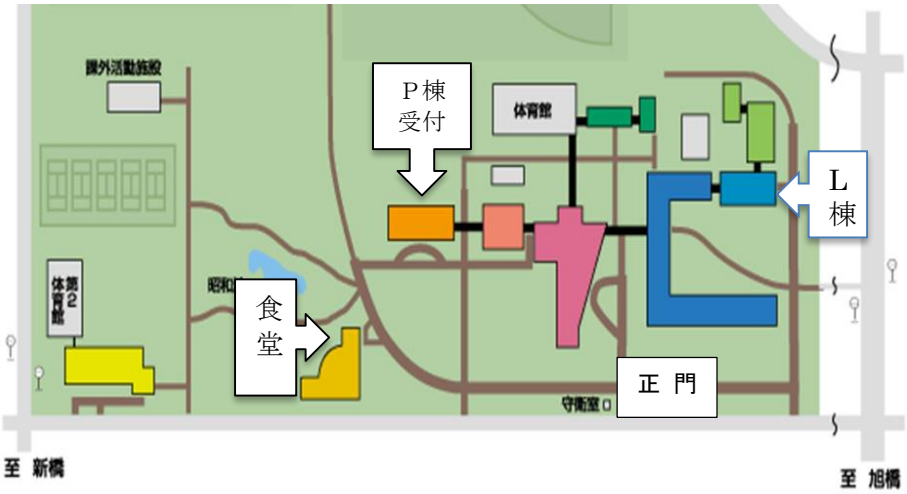
Ⅳ　発表中止の場合

発表を取りやめる場合は，必ず事前に大会実行委員会までご連絡ください。なお，発表時刻の繰り上げは行いません。

会　場　案　内　図

＜受付・生協食堂＞

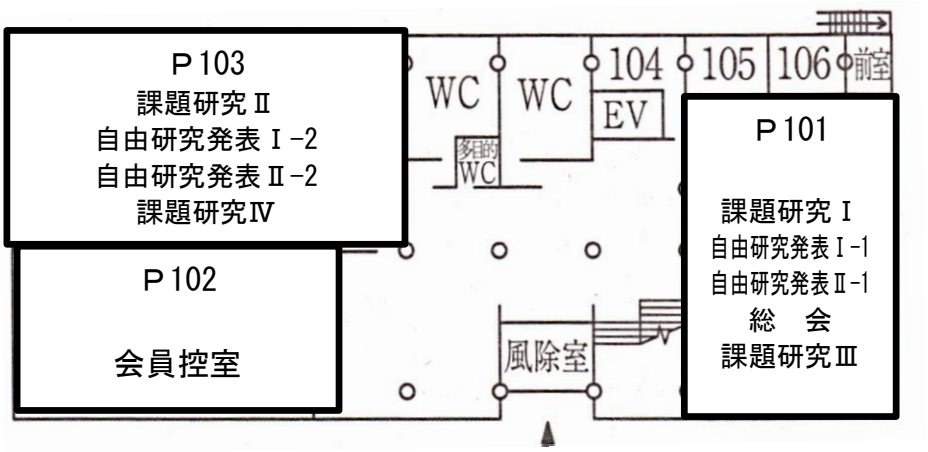
○正門から入り，左手にある「共通講義棟玄関」へお越し下さい。



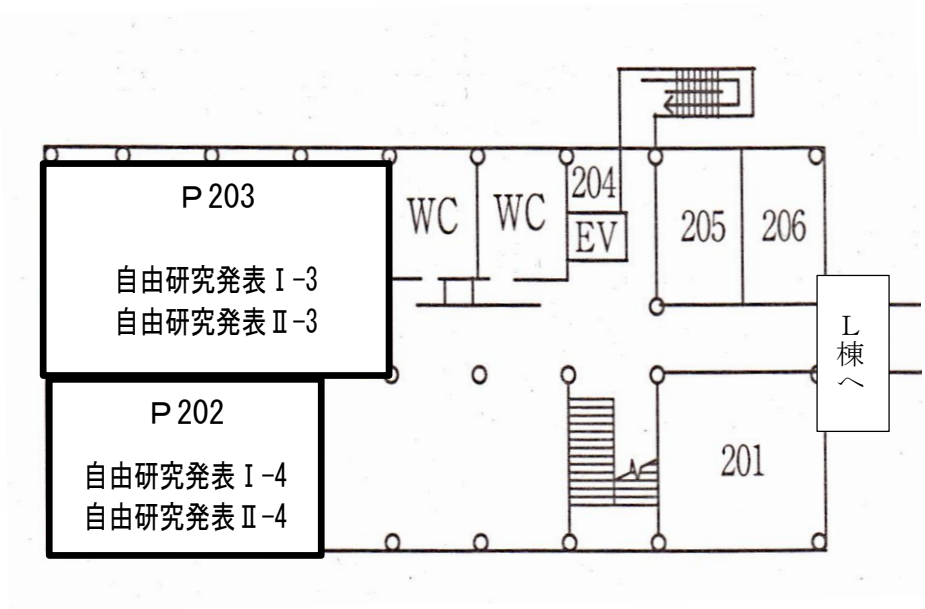
○P 棟の２階からＬ棟に行くことができます。

○昼食は大学生協の食堂をご利用ください。

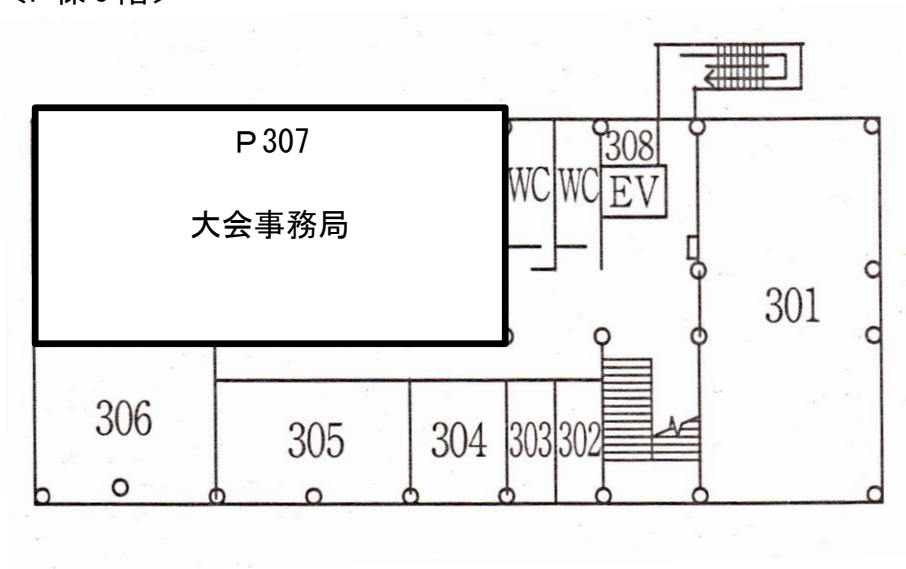
＜P 棟１階＞



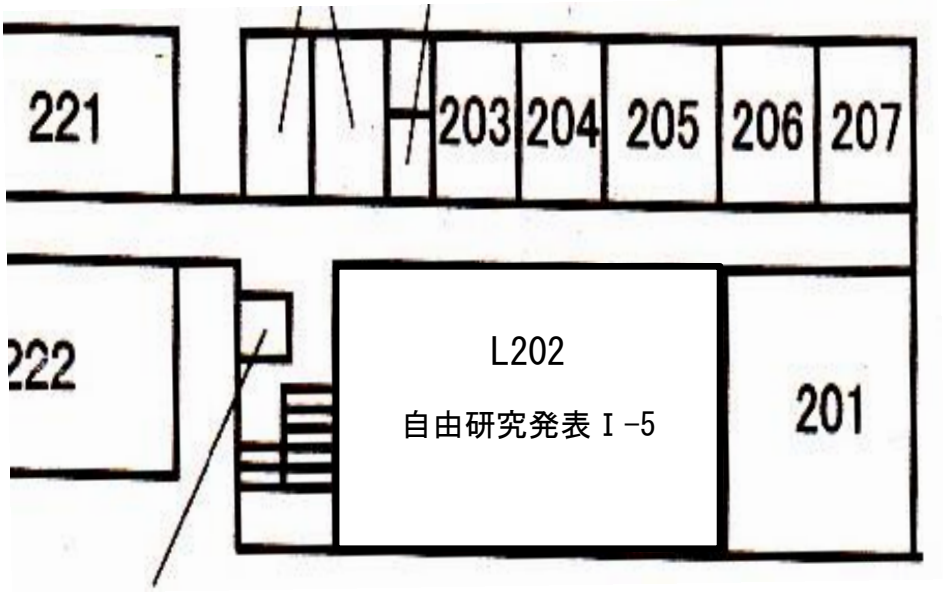
＜P 棟 2 階＞


P 203
自由研究発表Ⅰ-3
自由研究発表Ⅱ-3
P 202
自由研究発表Ⅰ-4
自由研究発表Ⅱ-4
WC
WC
204
EV
205
206
L
棟
へ
201

＜P 棟 3 階＞


P 307
大会事務局
WC
WC
308
EV
301
306
305
304
303
302

＜L 棟 2 階＞


221
203
204
205
206
207
222
L202
自由研究発表Ｉ-5
201

＜L 棟 3 階＞

330
331
L 301
公開シンポジウム

第 1 日（6 月 30 日）10:00～12:00

課題研究Ⅰ　カリキュラムの評価とマネジメントをめぐって
－「効果検証」を中心に－
P 棟 101

カリキュラム・マネジメントに示される「エビデンス・ベイスト」な教育実践の必要性が叫ばれる中で、各学校ではカリキュラムの「効果検証」が求められるようになった。だが、そもそもカリキュラムの「効果検証」とは何か。それは学力調査の結果をみればわかるものなのか。学校現場ではこうした戸惑いの声が聞かれる。カリキュラム・マネジメントに取り組む前提として、カリキュラム評価の理論と実践から学ぶ必要がある。そこで、この課題研究では、アメリカを中心に展開されてきた「プログラム評価」研究を交えて、日本でのカリキュラム研究の課題を検討して、カリキュラムの「効果検証」をめぐる理論と実践の論点を整理する。

●発表者
・総合制高等学校カリキュラム研究の立場から
岡部善平（小樽商科大学）

・プログラム評価研究の立場から
安田節之（法政大学：招待）

・カリキュラム開発研究の立場から
安藤輝次（関西大学）

●司会・コーディネーター
田中統治（放送大学）
澤田稔（上智大学）
吉冨芳正（明星大学）

第 1 日（6 月 30 日）10:00～12:00

課題研究Ⅱ
学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどう進めるか
P 棟 103

近年、学校現場と協働したカリキュラム研究の推進に期待がますます高まっている。大学研究者や学会が理論を構築し、それを現場に提供するという一方向的な関係性にとどまらず、両者が共同して実践的・理論的な研究課題の解決にあたることが求められている。

こうした期待の一方で、いくつもの課題が存在している。学校のカリキュラム改善や評価に関わる具体的で個別的な研究成果を、どのようにアカデミアでの議論に接合し、学術的な研究知見に高めていくことができるのだろうか。あるいは、大学と学校現場の関係が指導の上下関係から脱却し、真に協働的な関係へと再構築することができるのであろうか。学校の課題を的確に捉え、課題解決に真に資する研究をどのように推進するのか。

本課題研究では、研究の多様性も視野に入れつつ、学校教育活動の充実と学術的研究の発展の両立をめざして、学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどのように進めるかについて明らかにしたい。あわせて、学会における若手育成という観点から、本学会の若手が積極的に学校現場と協働した研究を推進するための基盤を構築したい。

- 発表者：
  - ・カリキュラムの研究と開発をつなぐ
    ～研究開発学校の取組をもとに～　天笠 茂（千葉大学）
  - ・学校現場との協働に基づく研究を進める過程でのとまどいと模索
    木村 裕（滋賀県立大学）
  - ・「実践的研究者」としての学校教師
    ～研究者と実践者を相対化する互恵的研究～水野正朗（東海学園大学）
- 司会：
  村川雅弘（甲南女子大学）
  柴田好章（名古屋大学）
- コーディネーター：
  村川雅弘（甲南女子大学）
  田村知子（大阪教育大学）
  柴田好章（名古屋大学）

第１日（6 月 30 日）13:00～15:15　　司会は五十音順

自由研究Ⅰ－１	P 棟 101

司会　工藤文三（大阪体育大学）
佐藤　真（関西学院大学）

13：00　中学１年生のペア学習におけるペア類型と学習効果の検証　※
福本義久（四天王寺大学）

13：25　小学校における授業改善の方策に関する研究－参観者の授業チェックシートを活用して－　※
浦郷淳（佐賀大学教育学部附属小学校）

13：50　コミュニケーション能力と創造的思考力を育む新領域「創造表現活動」の可能性－附属高松中学校４年目の挑戦－　※
小野智史（香川大学教育学部附属高松中学校）

14：15　オルタナティブ・スクールにおけるカリキュラム開発に関する一考察一箕面こどもの森学園の実践を中心に一　※
○鈴木伸尚（京都大学大学院）
平野拓朗（鹿児島大学）

全体討議（14:40～15:15）

自由研究Ⅰ－２	P 棟 103

司会　子安潤（中部大学）
冨士原紀絵（お茶の水女子大学）

13：00　教職大学院カリキュラムの現状と課題－アンケート調査結果をもとに－　※
○宮下　治（順天堂大学国際教養学部）
倉本哲男（愛知教育大学教職大学院）

13：25　サービス・ラーニングコーディネーターの資質・能力に関する研究
馬場洸志（愛知教育大学博士課程）

13：50　学習者の著者性に向かう教師のリヴォイシングに関する考察　※
金田裕子（宮城教育大学）

14：15　教職大学院プログラムのカリキュラムマネジメント -「博士課程 Ed.D.との接続」＆「名古屋市・愛知県教育委員会との協働」-
○倉本哲男（愛知教育大学）
宮下　治（順天堂大学）
○磯部征尊（愛知教育大学）

全体討議（15:05～15:15）

第１日（6 月 30 日）13:00～15:15　　司会は五十音順

自由研究Ｉ－３	Ｐ棟 203

司会　中野和光（美作大学）
藤川　聡（北海道教育大学）

13：00　隠れたカリキュラムと教師の身体ーインプロ（即興演劇）を用いた初任者教員研修を事例としてー　※
園部友里恵（三重大学）

13：25　学び続ける教員のキャリア自己概念における具体的一考察　※
川上知子（愛知淑徳大学）

13：50　野村芳兵衛における「親交学校」の構想と仲間づくりの教育思想の展開―「協働自治」概念を媒介項にして―
冨澤美千子（横浜美術大学）

14：15　東井義雄のカリキュラムマネジメント（教育課程経営）に関する一考察
齋藤　義雄（東京家政学院大学）

全体討議（14:40～15:15）

自由研究Ｉ－４	Ｐ棟 202

司会 近藤孝弘（早稲田大学）
西岡加名恵（京都大学）

13：00　ドイツの初等学校教科書における「インクルーシブ」な作業課題の検討　※
中園有希（川村学園女子大学）

13：25　Stenhouse, L. A.の履歴にみる諸特徴 ―"Teacher as Researcher" 論の再検討に向けて―
根津朋実（筑波大学）

13：50　学問の論理と社会問題学習の両立をはかる学びの構造ー社会改造主義のカリキュラムイデオロギーに着目してー　※
山﨑辰也（北海道北見北斗高等学校）

14：15　学校と生活を媒介する「実践的学習」(praktisches Lernen)の構想とその問題―1980-90 年代ドイツの授業改革に注目して―
田中怜（筑波大学大学院）

14：40　スウェーデンの義務教育における共生のカリキュラム～「性の多様性」と「人権」を重視した 2011 年版ラーロプラン～　※
戸野塚厚子（宮城学院女子大学）

全体討議（15:05～15:15）

第 1 日（6 月 30 日）13:00～15:15　　司会は五十音順

自由研究Ｉ－５	Ｌ棟 202

司会　田村知子（大阪教育大学）
八尾坂修（開智国際大学）

13：00　学習指導要領の領域分類の意義と問題点―特に平成 29 年告示小学校算数 C 領域をめぐって―　※
正田良（国士舘大学）

13：25　自ら学ぶ子どもの育成を図る教育課程の創造と課題―学校改革をめざした授業改善と教育課程改革を例に―　※
内田　卓雄

13：50　大学入試改革とキーコンピテンシーを支える教育産業複合体
磯田文雄（名古屋大学）

14：15　対話的で質の高い学びの実現を促進する FAM アプローチ－Formative Assessment Matrix for Lesson Design－　※
○水野正朗（東海学園大学）
副島　孝（愛知文教大学）

14：40　公共職業能力開発施設を活用した技術教育のカリキュラム開発支援に関する研究～技術科教育を専攻した教員を配置しない影響からの事例　※
井川大介（北海道北見市立北小学校）

全体討議（15:05～15:15）

第 1 日（6 月 30 日）15:30～18:00

公開シンポジウム
子どもの主体的な学びを支える学校づくり
L 棟 301

新学習指導要領の改訂の基本方針の一つとして,「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が示された。それを受け，学校現場ではグループ学習を取り入れた対話の授業が多く行われている。しかし，対話ありき活動ありきで，本来学びの主人公であるはずの子どもの主体的な姿が見えてこない場合が多い。

そもそも，この「主体的な学び」は，決して今新たに生まれたものではない。我が国においては，大正自由教育や戦後初期の教育，近年においては，生活科や総合的な学習の時間の創設において，注目されてきたものである。しかし，学習内容の増加や全国学力学習状況調査の実施により，子どもの主体的な学びが奪われているのではないか。

子どもの主体的な学びをつくっていくには，もちろん一教師の教材開発力や授業技術の向上は不可欠であるが，それだけでは不十分である。子どもの主体的な学びを支える学校体制をつくり，それに向け全教職員が協力して取り組むことが必要である。また，子どもの体験活動や地域の人々や自然とのかかわりを学校全体のカリキュラムとして創っていくことが不可欠である。

そこで今回，子どもの主体的な学びとはどのような学びであるのか，子どもの主体的な学びを支える教職員集団をどのように組織するのか，すなわちカリキュラムや校内研究体制をどのように組織するのかについて協議していきたい。

〈司会〉　高橋亜希子（南山大学）　坂井誠亮（北海道教育大学）

〈パネリスト〉

○鹿毛雅治（慶応義塾大学）

○豊田ひさき（朝日大学）

○村田敏彰　吉田尚規（石狩市立生振小学校）

〈指定討論〉前田賢治（北海道教育大学）

第 2 日（7 月 1 日）10:00～12:15　　司会は五十音順

自由研究Ⅱ－1	P 棟 101

司会　磯田文雄（名古屋大学）
田中統治（放送大学）

10 : 00　カリキュラム研究における授業研究の位置　※
的場正美（東海学園大学）

10 : 25　教師集団によるスクール・ベースト・カリキュラム・マネジメント —大阪教育大学附属平野小学校・研究開発（2 年次）の成果と課題—　※
峯　明秀（大阪教育大学）
岩崎千佳（大阪教育大学附属平野小学校）

10 : 50　「越境による共創」を鍵概念とする教科横断型カリキュラムデザインの挑戦 ～試行実践の成果と課題を手がかりにして～　※
緩利誠（昭和女子大学）

11 : 15　カリキュラム理論における powerful knowledge　-その歴史的背景そして展開・拡張-　※
○柳田雅明（青山学院大学）
○中野和光（美作大学）
志村　喬（上越教育大学）
本田伊克（宮城教育大学）
森岡修一（大妻女子大学）

全体討議（12:05～12:15）

自由研究Ⅱ－2	P 棟 103

司会　倉本哲男（愛知教育大学）
前田賢治（北海道教育大学）

10 : 00　対話と深い学びのカリキュラムーハーバーマス的道徳教育ー　※
浅沼茂（立正大学）

10 : 25　平成 29 年告示幼稚園教育要領の一考察—環境の視点から—　※
氏原陽子（釧路専門学校）

10 : 50　社会的レリバンスの高いシティズンシップ教育カリキュラム設計方略ー欧州評議会作成のリファレンス・フレームワークを事例としてー
○川口広美（広島大学）
橋崎頼子（奈良教育大学）

11 : 15　カリキュラムマネジメントの基礎を育成するための教員養成段階のカリキュラム等の開発　※
○吉冨芳正（明星大学）

村川雅弘（甲南女子大学）
田村知子（大阪教育大学）
石塚　等（横浜国立大学）
倉見昇一（文部科学省）

全体討議（12:05～12:15）

第２日（7 月 1 日）10:00～12:15　　司会は五十音順

自由研究Ⅱ－３	Ｐ棟 203

司会　柴田好章（名古屋大学）
高橋亜希子（南山大学）

10：00　授業改革から教育課程改革へ―「比例」と「内包量」を題材として　※
井上正允（元佐賀大学）

10：25　高等学校における主権者教育について　※
大塚雅之（大阪府立三国丘高等学校）

10：50　教科「外国語」（英語）の小中連携に関して―定型表現・会話のやり取り・文法の三者の関係に着目して―
大竹政美（北海道大学大学院教育学研究院）

11：15　英国の小学校長が学校を基盤としたカリキュラム開発において果たす役割とその特徴－カリキュラム・リーダーシップ論を分析の視点として－　※
○島田　希（大阪市立大学）
木原俊行（大阪教育大学）

11：40　理科カリキュラム編成における Eco-DRR の視点の意義　※
長島康雄（東北学院大学）

全体討議（12:05～12:15）

自由研究Ⅱ－４	Ｐ棟 202

司会　澤田　稔（上智大学）
根津朋実（筑波大学）

10：00　上海カリキュラム改革におけるテーマ学習－総合学習が e ラーニング化する現状と課題に焦点をあてて－　※
鄭　谷心（琉球大学）

10：25　近代中国における国語教育改革論議の様相　―「国語科」成立の歴史的位相―　※
山下大喜（名古屋大学大学院）

10：50　H. v. ヘンティッヒのカリキュラム論――ビーレフェルト実験学校の構想に焦点を合わせて――　※
市川和也（京都大学）

11：15　W. v. フンボルトによる中等教育課程改革の構想と展開―教育課程の規準＝カノン問題を視座として―　※
宮本勇一（広島大学大学院）

11：40　P.フレイレによる「カリキュラム転換運動」にみる学校と社会の関係性に関する一考察
佐藤雄一郎（広島大学大学院）

全体討議（12:05～12:15）

第 2 日（7 月 1 日）13:30～15:30

課題研究Ⅲ　「見方・考え方」をどう捉えるか
―資質・能力の育成と教科の本質の追求とをつなぐ―
P 棟 101

新学習指導要領において、主体的で対話的な学びであるだけなく、教科の本質に迫る深い学びであることを担保する上で、各教科の「見方・考え方」を意識することの必要性が提起されている。これまでも社会科や算数・数学科においては、「見方・考え方」概念は目標概念として用いられてきた。一方で、そうした概念を用いてこなかった教科もあり、その捉え方やインパクトは教科ごとにばらつきがみられる。そもそも、「見方・考え方」という概念は、カリキュラム研究や教科教育研究のこれまでの蓄積とどうつながっているのか、それは資質・能力の育成と教科の本質とをどう架橋しうるのか。本課題研究では、「見方・考え方」という概念をどう捉え、そこからどのような実践的示唆を導き出すのかについて考える。それを通して、資質・能力（教科横断的な育ち）の育成と教科の本質の追求とを架橋するものをどう概念化するかという、カリキュラム研究の一般的論点にも迫っていきたい。

●発表者
・カリキュラム研究の立場から
――「逆向き設計」論を踏まえた検討――
西岡加名恵（京都大学）

・社会科教育の立場から
――IDM(Inquiry Design Model)を踏まえた検討――
草原和博（広島大学）

・国語科教育の立場から
――教科教育学研究に突きつけられていること――
阿部昇（秋田大学）

●司会・コーディネーター
的場正美（東海学園大学）
石井英真（京都大学）

第 2 日（7 月 1 日）13:30～15:30

課題研究Ⅳ　いま改めて多文化主義の教育を考える

P 棟 103

多様性という言葉を否定的な文脈で使用するのはホワイトハウスだけではない。以前より同化圧力が強いと言われてきた日本でも，ヘイトスピーチに象徴される異質排除の風潮は，ときに若干の軋みをあげながらも着実に広がりつつある。

このような現状認識は，いま改めて多文化主義への注目を促すことになる。多文化主義については，文化と文化のあいだの差異を必要以上に強調しがちであり，また被害者としての序列を競う結果をもたらしやすいといった問題点も指摘されてきたが，今日のように排他主義が高まる中では，そうした問題を認識しつつも，やはりその人権上の価値や社会統合上の意味について再考しないわけにはいかない。

この課題研究では，多文化教育のなかでも特に先住民の教育に焦点を当て，ウレシパ・プロジェクトという実例を手がかりに，アメリカにおける議論を一つの参照軸としつつ，これまでのカリキュラム研究が反省すべき点と今後の課題を明らかにしていきたい。

●発表者：

・ウレシパ・プロジェクトがめざすもの

本田優子（札幌大学）

・異質な他者の(不)可能性

――多文化主義とカリキュラムの政治学から考える

生澤繁樹（名古屋大学）

●指定討論者：

上地完治（琉球大学）

●司会・コーディネーター

・近藤孝弘（早稲田大学）

・中野和光（美作大学）